

1. はじめに

阿賀野市教育委員会（以下、市教委）は、令和2年9月から外輪橋遺跡（そとわばしいせき）発掘調査を実施しています。

今月から毎月1回「発掘調査だより」に調査の様子を紹介していきます。写真や図などを使い、わかりやすくお伝えしたいと思います。よろしくお祈いします。なお、この発掘調査だよりは市のホームページでも公開していますので、あわせてご覧ください。

発掘調査は、阿賀野市が委託した株式会社帆苺組が実施しています。

2. 遺跡の概要

外輪橋遺跡は市内里字外輪橋地内にあります。

遺跡は水原市街地の南東側に位置し、安野川と大荒川が合流する左岸に広がります。

今回、県営湛水防除事業に伴い、市教委が工事予定地の範囲を試掘調査したところ、平安時代（約1200～800年前）の遺構（昔の建物の柱の穴など）や遺物（昔のひとが使っていた土器など）が発見され、発掘調査を実施することになりました。

今回調査する範囲は、東西方向にとっても長いので、調査区を西側からA区（715㎡）・B区（776㎡）・C区（559㎡）の3つに分けて調査を行います。（第2図）



第1図 外輪橋遺跡の位置



第2図 調査範囲のようす（西から）

3. 発掘調査の状況

10月1日より、C区の表土掘削（ひょうどくっさく）作業を開始しました。

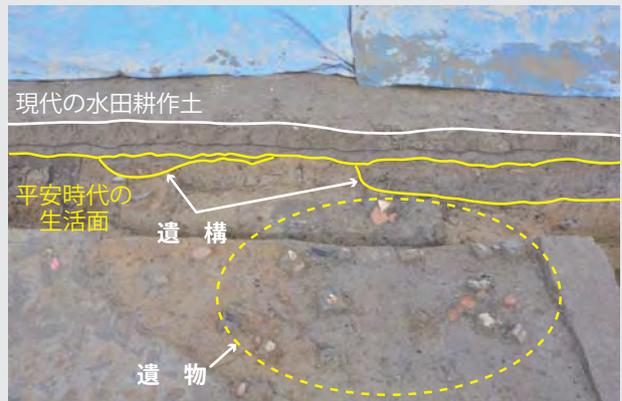
表土掘削は、本格的な発掘調査をおこなう前に、現代の水田耕作土を取り除き、平安時代の生活面まで重機を使って慎重に掘り下げる作業です。（第3・4図）

その結果、C区の東側では、現在の地面から20～40cmの深さで建物の柱の穴（第5図）や昔の川跡（第6図）が発見されました。また、青灰色に硬く焼かれた須恵器（すえき）や茶褐色で素焼きの土師器（はじき）（第7図）をはじめ、昔の川跡からはクルミやトチの実などの木の実（第8図）が出土しています。

まだ本格的な調査が始まったばかりで遺跡の詳しいことはわかっていませんが、次号以降に皆さんにお伝えできるよう、今後がんばって調査を進めていきます。



第3図 表土掘削作業のようす（B区）



第4図 外輪橋遺跡の地層（C区）



第5図 発見された柱の穴（C区）



第6図 昔の川跡のようす（C区）



第7図 出土した須恵器や土師器



第8図 昔の川跡から出土した木の実